

ID	感染症(PT)	出典	概要
39	旋毛虫症	ProMED-mail20070717.2292	ポーランドからドイツに持ち込まれた旋毛虫症4例について報告する。1例の患者は著しい好酸球増多症、肝酵素上昇、筋酵素上昇を示し、入院後、再分極障害となり、心停止を呈した。4例の患者全員がこの3か月の間にポーランドに旅行歴があり、彼らは地域の食肉解体場において豚肉とソーセージを買って食べた。臨床上の診断は血清学的検査によって確定された。すべての患者は、酵素結合抗体免疫測定法(ELISA)とimmunoblotで旋毛虫に対して高い抗体価を示した。
40	炭疽	NEWS RELEASE - ANTHRAX UPDATE 2007年7月24日	2007年7月24日、米国South Dakota州Brule郡のウシの群れで、今年2回目の炭疽が確認された。100頭中11頭が死亡した。この群れはワクチン接種を受けていなかった。この群れは検査による確定の前に、獣医の勧告に従い処理された。暑さに関連した家畜の損失が多数報告されており、暑さ対策をとることが重要である。
41	炭疽	ProMED-mail20070808.2575	カナダManitobaのInterlake地区で炭疽がアウトブレイクし、雌牛49頭、ヤギ2頭、ウマ1頭が死亡したと2007年8月7日にCFIAが発表した。CFIAは2007年7月20日に1例目の死亡例を認知していた。Manitobaでは2000年以降ほぼ毎年アウトブレイクが起こっている。
42	日本脳炎	ProMED-mail 20070829.2839	インド保健省は、2007年8月16日までに、インドの9つの州で日本脳炎837例を確認し、185人が死亡したと報告した。日本脳炎は中枢神経系に影響を及ぼし、麻痺、昏睡のような重篤な合併症や最終的に死亡の原因となる。WHOによると、この病気の致死率は最高30パーセントで、生き残った人々も終身身体障害者になる可能性がある。蚊が日本脳炎の根本の原因であるが、ウマとブタがウイルスの保有宿主である。田舎の人々がブタの近くで生活していることも原因の一つであるが、ワクチンの不足が問題である。
43	ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS 2007年11月8日	調査の結果、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の感染源が養豚場である可能性が示された。この致死性細菌は、かつては病院内感染だけだと思われたが、米国では2005年に死亡例が19000人に達し、HIV/AIDSでの死亡例より約2000人多かった。2007年の新しい調査では、オンタリオの20の農場のうち45%で、ほぼ5人に1人の農民と4匹に1匹のブタでMRSAを確認した。ヨーロッパの研究では、日常的な養豚場での抗生物質の使用がMRSAの可能性を増やすことを示している。また米国の獣医はMRSAの保菌者である。
44	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE 2007年11月7日	Vet Microbiolに発表されたKhannaらの研究は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)がカナダの養豚場および養豚家で流行していることを初めて明らかにした。オンタリオの20の農場のブタ285匹を調べた結果、45%の農場(9/20)で、4匹のブタに付きほぼ1匹(71/285)でMRSAを検出した。また養豚家5人に付き1人(5/25)がMRSAのキャリアであった。これは一般的な北米人より大いに高い比率である。オンタリオのブタおよび養豚家で検出されたMRSA株はカナダでのヒトMRSA感染に共通する株を含んでいた。
45	ブドウ球菌感染	Vet Microbiol 2007; 122: 384-386	後ろ向き研究により、デンマークのブタでメチシリン耐性および感受性のStaphylococcus aureus ST398が初めて検出された。検査した100頭の内10頭で鼻腔にST398が検出され、3つの養豚場の内2つが陽性であった。10のST398分離株の内9株がspaタイプt034、1株がt1793で、ペニシリンに加え、エリスロマイシン、クリンダマイシンおよびテトラサイクリンに抵抗性であった。ヨーロッパのブタでこの新しい人畜共通細菌が急速に拡大していることが示唆された。
46	レトロウイルス	Comp Immunol Microbiol Infect Dis 2007 Aug 7	中国ミニチュアブタの7つの飼育場におけるブタ内因性レトロウイルス(PERV)について、大規模な調査を実施した。DNA検体348例の全てにPERVが存在した。遺伝子型別の保有率は、A型74.43%、B型95.40%およびC型30.46%であった。WuzhishanブタおよびBamaミニブタではC型は存在しなかった。
47	レプトスピラ症	ProMED-mail20071016.3383	保健環境省はレプトスピラ症100症例を確認したと発表した。レプトスピラ症は、スピロヘータLeptospiralに起因する人畜共通感染症で、それは、通常、断続的または継続的に病原体を排出する無症候性キャリア動物(例えば齧歯類、イヌ、ブタ、およびウシ)から、ヒトに感染する。レプトスピラ症はジャマイカの風土病で、秋の豪雨の洪水後に発生する。実際、レプトスピラ症は家畜(ブタ、ウシおよびヤギ)で血清学的に証明され、Leptospiraがジャマイカで土と水のサンプルから分離された。
48	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1-4	Streptococcus suisは東南アジアで発生している人畜共通感染症である。2006年8月までに報告されたヒトのS. suis感染数は400例に達し、約90%は中国、タイ、香港、台湾およびオランダで発生した。しかし、このデータにはベトナムでの少なくとも200の感染例は含まれていない。血清型2がブタとヒトに対し最も病原性が高いと考えられているが、2001年にS. suisより死亡したベトナム人男性からは血清型16が検出された。S. suis血清型16はヒトに感染する可能性がある。
49	レンサ球菌感染	http://english.prawdaru/society/95134-vietnam_pork-0	2007年7月23日現在、ベトナムではブタレンサ球菌感染により、少なくとも2人が死亡し、数十人以上が発病しているため、当局は豚肉を取り扱ったり、病気のブタと接触するときの注意を喚起している。この病気を確定診断できる病院は2つしかないため、報告されていない症例がより多数あるおそれがある。ベトナムでは病気のブタを食べたり、屠殺したりするため、状況は更に重大になるおそれがある。

ID	感染症(PIT)	出典	概要
50	レンサ球菌感染	Jpn J Infect Dis 2006; 59: 397-399	1994-2006年の日本におけるStreptococcus suis感染の7症例についてまとめた。全例がブタ暴露歴があり、うち5例は暴露時に手に傷があった。5例は髄膜炎症状、3例は敗血症症状を呈し、1例は突然死した。分離されたS. suisは 全てLancefieldグループDおよび血清型2に属し、ペニシリンG、アンピシリン、セフトキシムおよびシプロフロキサシンに感受性があった。しかし、6例はエリスロマイシンとクリンダマイシンに抵抗性を示し、4例はミノサイクリンにも抵抗性を示した。分離株6例はシーケンス型1に属し、1例はシーケンス型28に属した。
51	レンサ球菌感染	PIG PROGRESS 2007年7月24日	北ベトナムで、ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)感染症が原因で2人が死亡した。Vietnam News Agencyは、Streptococcus suisが原因で病気になる、ハノイ病院に運ばれた患者は今年になってからこれまでに22人いると述べている。ベトナムの医師によると、病気のブタの肉を食べるか、病気のブタの近くで空気を吸入して感染し、急速な内出血と高熱を患うとのことである。
52	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070721.2345	ベトナム熱帯伝染病研究所は、2007年7月18日に、2007年初めからブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)による重症患者21名を收容したと報告した。21名のうち2名は死亡し、他の2名はまだ危篤状態である。S. suisは、ブタが飼育される世界の多くの地域で見つかる細菌で、飼育ブタで最も一般的であるが、時折イノシシ、ウマ、イヌ、ネコ、トリで検出される。ヒトのS. suis感染症は、病気に感染したブタを屠殺する人々の間で主に起こる潜在的に致命的な人獣感染症であるが、感染したブタの調理された肉または臓器を食べることは危険ではなく、また、ヒト-ヒト感染は起きないとされている。
53	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070726.2403	42名が発症し、2名が死亡したベトナムのブタ病に対し、速やかな調査と細菌を制御するための緊急対策が必要であると、農業大臣が発言した。この病気が、国中に広がったブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)に起因したと、ベトナム農業新聞が火曜日[2007年7月24日]に報じた。北部地方の22人が感染したあと、南部地方で20人が感染した。
54	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070823.2756	2007年8月12-14日にWisconsin州Madisonで開催されたヒトへ伝染する自然界の病気に関する国際会議で、ブタ連鎖球菌が、人畜共通病原体として過少報告されるか誤診されるかの調査結果が報告された。1968年にデンマークで最初のヒト感染症例が報告された後、東南アジアでは普通にみられ、英国、オランダ、ドイツ、クロアチア、ニュージーランドおよびギリシャで孤立性ヒト症例が報告されている。米国での最初のヒト症例は2006年に報告された。中国の2005年の発生では、200人以上が感染し、死亡率は約20%であった。豚と密接に接触するヒトの間で、現在認識されている以上の頻度でヒトに感染すると結論付けた。
55	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070828.2824	ハノイのベトナム熱帯伝染病研究所は、ヒトにおけるブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)感染を診断する能力を新しく開発した。ヒトにおけるS. suis感染症例数の増加が、PRRS(ブタ生殖呼吸症候群)の発生に関連するかまたは以前にはベトナム北部にはなかった良い検出システムに関連するかは不明である。同国南部のホーチミン市の病院ではヒトのS. suisベトナム株を分離し、特徴を調べた結果、S. suisは同国における成人の髄膜炎の主要な原因の1つであると思われた。
56	レンサ球菌感染	THE PIG SITE 2007年7月24日	中国Shenzhen出身の49歳男性が、ブタが感染源の細菌病であるブタ連鎖球菌症(Streptococcus Suis)と診断された。地元政府はその男がどのようにしてその病気に罹ったか明らかにしていないが、保健農業局が肉製品の検査を強化したことを強調した。男性の家族と同僚は、その病気の徴候を表さず、その伝染病はShenzhenのブタの間に見られなかったと政府は発表した。ブタ連鎖球菌症の初期徴候は発熱、頭痛、眩暈で、髄膜炎や関節炎を起こす。2005年にはこの病気のアウトブレイクにより南西部中国のSichuan省で、37人が死亡し、250人以上が感染した。
57	レンサ球菌感染	THE PIG SITE 2007年7月25日	ベトナムで病気のブタから感染したブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)症によって男性2名が死亡し、他の42名が発症したと、当局が発表した。ハノイの熱帯病研究所の副所長のNguyen Hong Haによると、生の肉を取り扱うか、十分に加熱調理されなかった料理を食べる人に感染するとのことである。42名の感染者のうち、20名は南部、22名は北部の人である。
58	レンサ球菌感染	THE PIG SITE 2007年7月27日	少なくとも更に4人のベトナム人が、今年この国で26人が感染した珍しいブタ病に罹ったと、ベトナム熱帯伝染病研究所が報告した。患者の大部分はブタ由来のブタ連鎖球菌(これまでに26人のうち2人が死亡している)に感染後9-10日目に重症で入院した。ほとんどの患者が生活のためにブタを屠殺したり、ブタ肉を加工、販売しているが、ブタの血液由来の食品(それはベトナムの田舎では全く一般的である)を食べることによって感染した患者もいた。さらに、ベトナムでは約30000頭のブタが青耳病(ブタ生殖呼吸症候群)に感染していると伝えられている。
59	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 1(16) 2007年4月20日	HPAにより進行中の研究でマウスにおいて歯科組織にTSE感染性があるとの知見が得られた。この結果は歯科用鏡および歯根管拡張器がvCJD感染の伝播経路になりうることを示す。英国歯科担当長官は歯髄拡張器および鏡を全ての患者に対し、1回限りの使用にするよう全ての歯科医に文書で通達した。vCJD伝播リスクを減少させるための注意である。また全ての歯科用装置について最高基準の汚染除去を行うよう忠告した。
60	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	SEAC/Position Statement 2007年6月13日	英国保健省はSEACに歯科治療処置を介したvCJD伝播のリスク概算を目的とした初期研究の知見についての助言を求めた。初期研究では、歯科処置によるvCJD伝播のリスクが予想より高いことが示唆された。ガイダンスは今年初め歯髄治療器具の使い捨てを勧告した。公衆衛生上の影響についてのより綿密な考察と、さらなるリスク減少手段の特定のため、全ての歯科治療のリスクについて詳細で包括的な評価を早急に行うことも重要である。